

特に注意したい「物」の事故

重大事故は一度起きれば今後の生活に大きな影響を与え、農業の継続が困難になることもあります。とりわけ機械や用具などの「物」による事故は、重大事故につながりやすく、注意や対策が必要です。

歩行型農機

下敷き
巻き込まれ
挟まれ



対策 バックの際は必ず後方を確認。ロータリーと足の位置は余裕をもって

乗用型農機



公道・ほ場での
転倒・転落
乗降中の転倒

対策 昇降路や公道ではブレーキの連結ロックを。降車時は後ろ向きに

刃のある器具

巻き込まれ
刃との接触



対策 整備は、必ず回転を止めて行う

脚立・はしご・斜面



不安定な場所
からの転落

対策 はしごや脚立は安定させて設置。高所作業では必ずヘルメットの着用を



映像で学ぶ農作業事故

『明日も農業をつづけるために。』公開中

JA共済ホームページ「TVCM・映像ライブラリ」からご覧いただけます。
<http://www.ja-kyosai.or.jp/enjoy/cf/index.html>

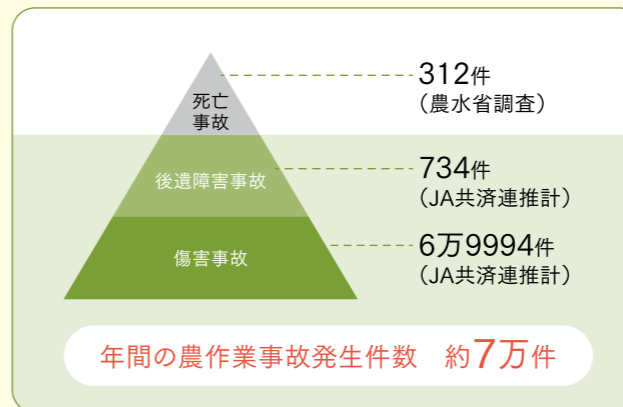


明日も農業をつづけるために。

これまでJA共済連が農家組合員の方々への保障提供を通じて蓄積してきた大量の共済金支払データを分析することで、今までは見えていなかった農作業事故の実態が明らかになりました。農作業の安全について、いま一度考えてみるとともに、万に備えて共済の加入も検討してみましょう。

協力:全国共済農業協同組合連合会(JA共済連) <https://www.ja-kyosai.or.jp>

図表1 農作業事故の全体像



図表2 農作業の特性と事故の関係

農作業の主な特性	データの検証結果	まとめ
① 環境 斜面、高所作業が多い 狭く暗い施設、炎天下が多い	「転倒(同一平面)」「墜落」が事故全体の過半数を占める 施設事故は約2割を占める 発生時期は7~9月で約3割を占める	事故が起こりやすい
② 物 さまざまな機械、用具、家畜を扱う	機械、用具、生物だけで約5割を占める 機械、用具、家畜の事故の重症度は他の事故よりも高い	重大事故につながりやすい
③ 人 高齢者が多い ひとりでの作業が多い	高齢者ほど重症度が高い 事故後すぐに発見されないケースが散見される	

死亡以外のけがも含めた農作業事故の全体については、統計データの不足からこれまで明らかにされていませんでした。JA共済連では大量の共済金支払データを分析することで、後遺障害事故は死亡事故の約2倍、傷害事故は死亡事故の約2.4倍起きていることを確認しました。この倍率を農林水産省の死亡事故調査(2016年)の312件に掛けることで、農作業事故が年間約7万件発生しているものと推計しています(図表1)。

氷山の一角だった死亡事故
年間約7万件の事故が発生

なぜ農作業事故がこれほど多いのでしょうか。事故には、場所や天候といった「環境」、農機具や生物などの「物」、作業者である「人」という三つの因子があります。それぞれの因子について、農業ならではの特性があり、三つの要因が積み重なることにより、「事故の起こりやすさ」や「重大事故へのつながりやすさ」が大きくなってしまっている(図表2)。

なぜ農作業事故が起こるのか

イラスト:ゆきたけし

『JA広報通信』引用